

文化施設のあり方に係る円卓会議 一般参加者意見まとめ

日 時：令和4年2月27日（日） 午後2時00分～午後4時10分

場 所：亀岡市役所1階 市民ホール

パネリスト：桂川市長

亀岡市における文化施設のあり方を考える懇話会 今里座長、
加藤委員、松井委員

一般参加者：30人

- 私たちは4年前に「亀岡市に新文化施設を要望する会」を結成して活動を続けているが、子どもたちが感性豊かに育ち、高齢者がいつまでも元気に活動できる基幹施設として、子どもたちと高齢者が一緒になって様々なことに取り組めるような総合文化施設が必要と考える。
施設の整備については、直ちに実現するとは思っていない。私たちが使用したいから要望しているのではなく、この町が将来どのような町になってほしいかを考えたとき、将来の世代にとって必要な施設であるとの思いからである。
私たちがこの町に求める姿と財政負担について、どう折り合いをつけていくか、もっと市民に問いかけたうえで、行政や市議会議員も交え、時間をかけて議論を深めたい。そのためにも、一定のロードマップが必要と考える。
- 事務局が実施したアンケートの結果を見たが、自分が思っている以上に、一般の市民との温度差がある。芸術活動に携わっている人には当たり前のことが、携わっていない人や観たことがない人には、異次元の世界の話であるように感じた。
子どもたちに感動を味わってもらい、芸術や音楽、演劇、舞踊等の文化を亀岡で広めていくためにも、小・中学生に、学校の体育館ではなく照明設備や音響効果がある、本物の舞台を見せてあげたい。
- 子どもたちの豊かな心を育むためにも、まちづくりに文化の観点が必要であるという、懇話会の共通認識に共感する。子どもたちが、育ったふるさと亀岡を愛する気持ちと誇りを持てるよう、亀岡の歴史や文化を、体験活動等を通して学べる場を充実させるべきと考える。
- 聴覚障がい者として話をさせていただく。亀岡会館は手話の魅力を発表する場でもあった。劇場型の座席、舞台、緞帳のある施設だった亀岡会館は客席から見やすかったが、ガレリアかめおかはフラットな会場が多く、見にくい。車椅子や知的障がいのある方も様々な発表をしたいと思っているが、発表する場所に舞台が無いことが残念で

ある。

共生社会の実現に向け、障がいの有無に関係なく、皆が一緒に手を携えて文化を担っていく場所が必要。バリアフリーの環境づくりをしていただきたい。

また、小学校でダンスが必須課目になったので、ダンスを発表する場を提供してほしい。

- 以前は文化資料館にあまり興味が無かったが、子どもが小学生の時に、夏休みの工作の宿題で鳥獣戯画の絵巻を自分で作ろうとしたが、インターネットで調べても分からなかった。子どもと文化資料館へ行って絵巻の作り方を教えてもらい、完成させることができた。実際に触れて学べたことで、私も子どもも日本の文化に興味を湧いた。

スポーツをしている子どもたちの恵まれた市内の環境と比較すると、芸術をしている子どもたちの環境は整っていない。息子は剣道をしており、亀岡運動公園体育館やさくら体育館など活動する場に恵まれている反面、娘2人はクラシックバレエをしているが、亀岡会館が無くなってからは市外のホールへ行っている。地元のホールで発表会ができると親戚に来てもらいやすく、誇らしい気持ちになる。

客席の数は500席くらいであっても、音響や舞台の設備が整っており、舞台のすぐ裏に楽屋があるような、芸術を頑張っている子どもたちが成果を発表できる場があってほしい。

- 様々な地域で展覧会を開催してきたが、亀岡にはそのような場所が無いということをよく聞く。文化資料館は貧相な施設で、様々な文化財が放置されていた。

異常気象が続く昨今、貴重な文化財が水浸しになると、修復に莫大なお金と時間がかかる。特に、紙のものは修復不可能になることもある。文化財を保存する機能を備えることは、喫緊の課題である。資料館のあり方については、バックヤードをしっかりと整えることが一番大事なことであり、根幹である。

資料館と文化ホールでは求められる条件が異なるため、同じ土俵で話ができることと、そうでないことがある。それぞれの分科会で、テーマを絞って議論しないと進みづらいと感じる。

- 他地域の文化施設で働いたことがあるが、私を含めてプロになったり、人生が良い方に変った人をたくさん見てきた。これから生まれてくる子や転入してくる子なども含め、亀岡で育つ子どもたちにも、そのような体験をしてほしい。

先日、亀岡市で市民ミュージカルに出演したが、実際に公演等をしている人から意見を集め、どういうものが必要か考えていけば良い。

以上